

令和2年度行政事業レビューシート ( 金融庁 )

<b>事業名</b>	国際機関分担金 (IFIAR)			<b>担当部局庁</b>	総合政策局	<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始年度</b>	平成22年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	IFIAR戦略企画本部IFIAR戦略企画室	長岡 隆			
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>				<b>関係する計画、通知等</b>	監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) 憲章第9条				
<b>主要政策・施策</b>				<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	国際的な議論に積極的に参画すること等を通じ、国際金融システムの安定と発展、ひいては我が国経済の持続的な成長に資すること。								
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) の各加盟国が負担すべき事務運営費としての分担金								
<b>実施方法</b>	その他								
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求			
	予算の状況	当初予算	6.3	13	6	6	6		
		補正予算	▲0.2	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	0.4	-	-	-		
		計	6.1	13.4	6	6	6		
		執行額	6	13.4	6	-	-		
		執行率 (%)	98%	100%	100%	-	-		
		当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	98%	103%	100%	-	-		
<b>令和2・3年度予算内訳(単位:百万円)</b>	<b>歳出予算目</b>	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由					
	証券監督者国際機構等分担金	6	6	R2まで固定の金額だったものの、IFIARの方針により計算方法が変更され、金額が変動することになりましたので、6,367千円の要求となった。					
	計	6	6						
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	<b>定量的な成果目標</b>	<b>成果指標</b>		<b>単位</b>	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 -年度
	国際的な議論に積極的に参画し、日本のプレゼンスを高め、国際協調に貢献していく	IFIARにおける重要な意思決定機関である代表理事会への参加回数	成果実績	回	3	3	3	-	-
			目標値	回	3	3	3	2	-
			達成度	%	100	100	100	-	-
<b>根拠として用いた統計・データ名(出典)</b>	内部資料								
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	<b>定量的な成果目標</b>	<b>成果指標</b>		<b>単位</b>	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 -年度
	国際的な議論に積極的に参画し、日本のプレゼンスを高め、国際協調に貢献していく	IFIARにおける6つの主要なワーキンググループのうち、日本がメンバーとして出席するワーキンググループ数	成果実績	グループ	6	6	6	-	-
			目標値	グループ	6	6	6	6	-
			達成度	%	100	100	100	-	-
<b>根拠として用いた統計・データ名(出典)</b>	・IFIAR Annual Report 2016 (IFIARウェブサイト 29年4月21日公表) ・IFIAR Annual Report 2017 (IFIARウェブサイト 30年5月1日公表) ・IFIAR Annual Report 2018 (IFIARウェブサイト 31年5月16日公表)								

定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定量的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由		定性的な成果目標と平成29～令和元年度の達成状況・実績						
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 -年度
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標	(参考)IFIARにおける日本人職員数	実績	人	0	1	2	-	-	
			目標値	人	-	1	1	1	-	
			達成度	%	-	100	200	-	-	
単位当たりコスト	算出根拠	国際機関に対する義務的経費であり、単位当たりコストを算出できない。	単位当たりコスト	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込		
			計算式	-	-	-	-	-		
				-	-	-	-	-		
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	-								
	施策	-								
	測定指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 -年度	目標年度 -年度	
		実績値	-	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
-										
新経済・財政再生計画改革工程表 2019	取組事項	分野:	-							
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 -年度	元年度	2年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-		
	(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 -年度	元年度	2年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-		
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国際的な議論に積極的に参画すること等を通じ、国際金融システムの安定と発展を目指す事業であり、社会のニーズを反映していると考えられる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国際機関に日本国又は機関として加盟し、国際的な議論に参画するものであるため、地方自治体等に委ねることができない事業であると考えられる。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業の目的は、国際的な議論に積極的に参画すること等を通じ、国際金融システムの安定と発展、ひいては我が国経済の持続的な成長に資するものであるため、優先度の高い事業と考える。また、すべての加盟国が共通して負担すべきものであり、必要かつ適切な事業と考える。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	国際機関の総会決議で定められた分担金額であり、最低限のものと考えられる。また、IFIARの予算については、全加盟国による予算承認手続きが行われるほか、事務局から会計報告が行われており、費目・使途は真に必要なものに限定されていると考えられる。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	国際的な議論に積極的に参画しており、成果実績は成果目標に見合ったものとなっていると考えられる。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	国際機関への加盟国の責務に係る分担金を適切に支出しており、活動実績は見込みに見合ったものであると考えられる。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	○ 本経費は、監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) の各加盟国が負担すべき事務運営費としての分担金であり、令和元年度の成果目標 (IFIARにおける重要な意思決定機関である代表理事会への参加回数 (令和元年度年度: 3回開催中3回)、IFIARにおける6つの主要なワーキンググループのうち、日本がメンバーとして出席するワーキンググループ数 (令和元年度年度: 6つ全てに参加)) を達成していることから、適切に執行されていると考えられる。 ○ 費用の支出や国際会議への参加に加え、引き続き、IFIARの代表理事会の理事を務め、IFIARにおける国際的な議論に積極的に参画すること等を通じ、日本のプレゼンスを高め、国際協調に貢献していくことが必要である。	
	改善の方向性	本会合・代表理事会等の国際会議を通じ、積極的に国際機関の運営に関わるとともに、国際機関に対して効率的かつ効果的な運営・政策立案を求めます。	
外部有識者の所見			
我が国が金融に関する国際的な議論において主導的役割を果たし、国際協調に貢献している成果を表す指標として、現在は「日本が賛同した議案が決議された件数」や「重要な審議事項に関与した回数」などが用いられているが、達成率が100%となることが想定される成果指標であり、必ずしも直接的に成果の状況を示す指標とはいえない。一方で、「主導的役割」や「国際協調への貢献」に関して評価に値する具体的な成果を示す事例も積み上げられてきていることから、「主導的役割」や「国際協調への貢献」に関する成果を点検結果において具体的に記載してはどうか。さらに、これらの成果に関連した参考指標の設定についても今後検討してはどうか。			
行政事業レビュー推進チームの所見			
現状通り	外部有識者の所見も踏まえ、成果に関連した参考指標の設定について検討すること。		

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り

○我が国は、IFIAR代表理事会の理事を務めており、国際的な議論に積極的に参加している。引き続き、事業目的を実現するために令和3年度予算要求においても前年同規模の予算要求を行っていく。  
 ○拠出した資金について、IFIAR事務局からの会計報告を通して、資金使途が真に必要なものに限定されているか適切にフォローしていく。  
 ○IFIARにおける国際的な議論に積極的に参画し、日本のプレゼンスを維持または向上させるためには、IFIARの主要な会合に出席する必要がある。さらに、国際協調上、世界でも主要な資本市場の一つである我が国がIFIARにおいて議論に貢献することが重要であると考え。したがって、成果に関連した指標については、IFIARの重要な意思決定機関である代表理事会のメンバーの指名・選出にあたり、IFIARへの貢献度も勘案されていることを踏まえれば、現段階では、IFIARの代表理事会への参加回数を用いるのが適切であると考えられる。この他に、「主導的役割」や「国際協調への貢献」を測る適切な指標の設定は難しい状況であるが、例えば、当庁職員の主要ポストの獲得数など、よりよい成果指標としてどのようなものが考えられるかについて、中長期的に検討していく。

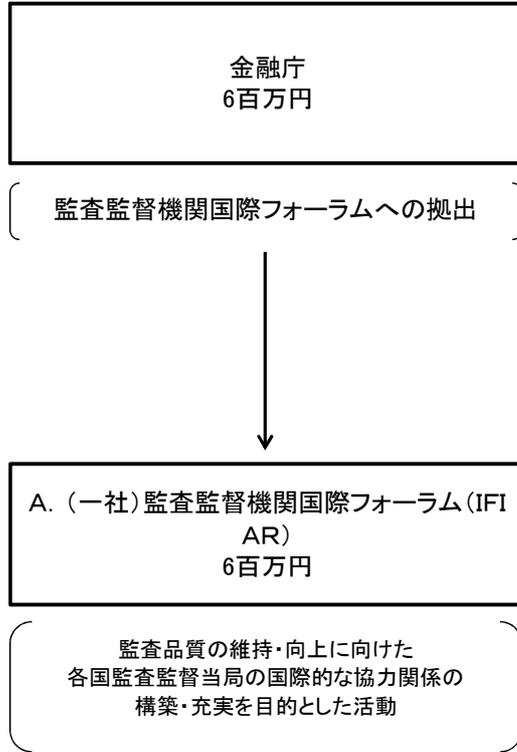
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	3	平成23年度	3	平成24年度	3	平成25年度	3
平成26年度	3	平成27年度	17	平成28年度	19-6	平成29年度	26
平成30年度	27						
平成31年度	金融庁 ( 0027 )						

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
 (単位: 百万円)



費目・使途  
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A. (一社) 監査監督機関国際フォーラム (IFIAR)			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事務運営費	監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) 事務運営費	6	-	-	-
計		6	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(一社) 監査監督機関国際フォーラム	6010005026240	分担金	6	その他	-	-	